平成二十七年度　小論文試験

受験番号
氏　名

次の文章を読み、問いに答えなさい。

古来より、牧師や教師などと共に医師は聖職とされている。わが国でも奈良朝の頃から僧侶・画工などと共に医師は方外、すなわち階級外の世捨人の身分で、多くの医師は①剃髪していた。聖職にある人は俗世の人々と異なって人間を超越した使命感を持ち、②俗人は近寄りがたいといったところがあった。医師は人体の構造や機能について深い知識を持ち、医療技術を修得していて、いくら素人である患者が努力しても容易に追いつけないものを持っているし、また生命を直接対象にしている医師に対し、社会は職業上のいくつかの特権を認めている。したがって、いくら患者と医師の関係は対等だといってもその間には大きな㋐カクベキがある、と考えられてきた。

また医師の方は、病める患者あるいは社会の期待に対して、誠意を持って尽くさなければならないといった使命感があり、定められた勤務時間外とはいえ、患者があれば手を尽くし、われを忘れて治療をしてきた。

（中略）

古来、医師は③慈愛の精神を持ち、患者をわが子の如く扱うべきであるという、いわゆる㋑パターナリズムが医師の倫理観として定着してきた。しかし、社会状況の変化、医学の発達・普及に伴い、新たに患者の人権尊重・自己決定権の尊重という、人権をめぐる問題が提起され、医療におけるインフォームド・コンセントの尊重が叫ばれるようになった。とくに一九六〇年後半頃から、アメリカを中心に、これが法理あるいは倫理として取り扱われるようになり、わが国にもこのような考え方がしだいに㋒シントウしてきた。

とくに医師は患者に対して病状に関しての十分な説明をし、診療行為についてはっきりとした㋓ショウダクを得ていないと、患者側に訴えられた時に訴訟の場で敗訴となり、医師は患者側に㋔バイショウ金を支払わねばならないといった事態となって、医師の間でもインフォームド・コンセントに対する認識が急速にひろまってきた。

しかし、一方において患者の人権尊重といった権利要求は医師の職業上の㋕［　　］という専門職としての意識との対立を呼び、また医療においてこれが民法上の契約といった冷たい人間関係を生むのではないかという④危惧が生じてきた。すなわち人間は物品とは違って感情をもった生き物であり、医療においても心の通った温かい人間関係が必要なのではないかという声である。そして、このインフォームド・コンセントは本来、医師と患者との信頼関係の確立のために必要な医療上の原則だとする意見が、わが国などでは強調されている。

このように、インフォームド・コンセントといっても人によりその考え方に相違があることをまず理解しておくことが大切であろうし、また医師も一般の人々もこの問題の本質を理解し、より良い人間関係をもった医療を確立すべく努力する必要があろう。

さて、ここまで医療において守るべき原則としてのインフォームド・コンセントについて言及してきた。とくにインフォームド・コンセントの原則にも例外があること、㋖またその施行にあたっては常に患者に対する情の配慮が必要であることなどについて述べてきた。

（森岡恭彦著　『インフォームド・コンセント』より）

問一　本文中の①から④の傍線の漢字の読みを書きなさい。

問二　本文中の㋐から㋔の傍線のカタカナを漢字で書きなさい。

問三　㋑パターナリズムが医療において具体的に弊害となることについて６０字以内で書きなさい。

問四　㋕に当てはまる言葉として最も適切なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

A　契約　　B　礼儀　　C　裁量権　　D　自由　　E　慣習

問五　㋖の傍線で記載されている理由について著者の考えを踏まえて自分の考えを３５０字以上４００字以内でまとめなさい。

聖マリアンナ医科大学 図書 27.2.-7 収 教育